

ベトナム中部農村部における植林政策の実態とアカシア林業の脆弱性に関する考察



○時任美乃理* 西前出* 浅野悟史** (*京都大学大学院地球環境学堂・学舎 **総合地球環境学研究所)

研究の背景と目的

ビジョン

経済発展が進み、大規模な土地開発が進む東南アジアの農村では土地利用の多様性を保持し、生業構造のレジリエンスを担保することが急務

ベトナム中部山岳農村の事例

土地の利用形態が大きく変化(新江, 2007)

少数民族の定住化政策
×
大規模植林政策

焼畑耕作地・休閒地から
アカシアプランテーションへ

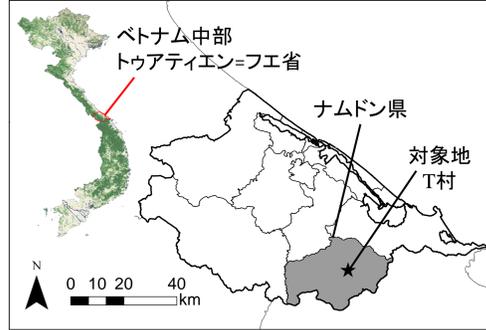
世帯ごとの生業をみると、自給可能な農作物生産が減少し、アカシア林業への依存が大きくなっている(時任ほか 2015)

開発の進む農村でいかに効率的な土地利用を実現するか？

住民によって営まれているアカシア林業の実態を明らかにすることを通じて、その課題を明確化する。

方法

①住民への聞き取り調査



ベトナム中部トウアティエン=フエ省
ナムドン県の山岳農村T村
(4集落, 106.24km², 人口1279人*)

聞き取り対象世帯: 50世帯
(林業地を所有する337世帯からランダムに抽出)

聞き取り内容

- 林業地の運用方法(植林間隔, 肥料の有無)
- 伐採周期
- 前回伐採した際の売値
- 政府や民間団体による支援の有無

実施期間: 2014年9~10月, 2015年9月

*Source: Commune People's Committee, 2014

図1 調査地

②林業地の地理情報分析

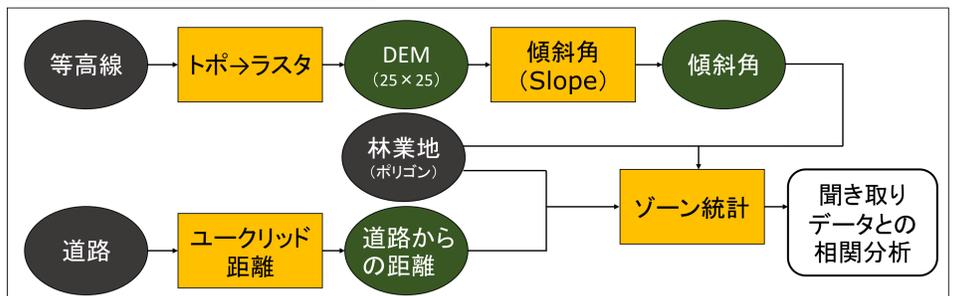


図2 分析のフロー

結果① 聞き取りから明らかになったアカシア林業の実態

各林業地の経済的格差

- 林業地の運用は各世帯の裁量に任されるが、伐採・運搬は買取りを行った仲介業者が行う
- 林道から遠い・傾斜が急な林業地では、作業道の作成や、人力による運搬が必要になる

運搬の条件を鑑みた早期伐採

伐採・運搬にかかるコスト増

仲介業者の買い取り価格に反映

世帯が持つ林業地の条件により、経済的格差が生まれる可能性

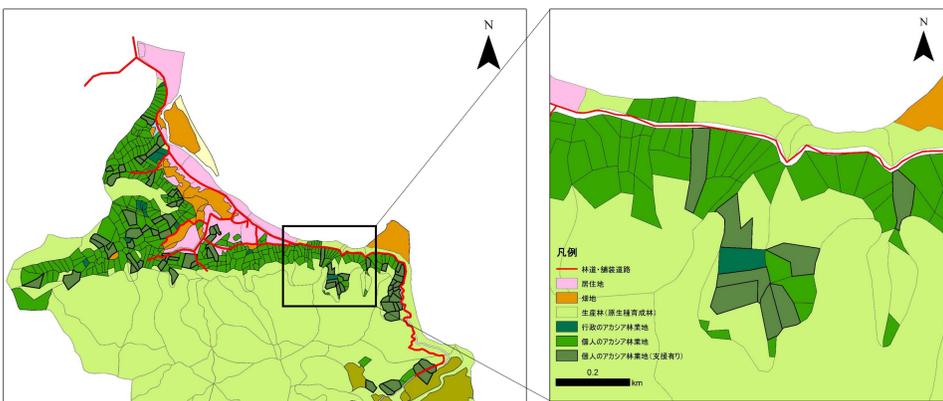


図4 拡大した土地利用図(2013)

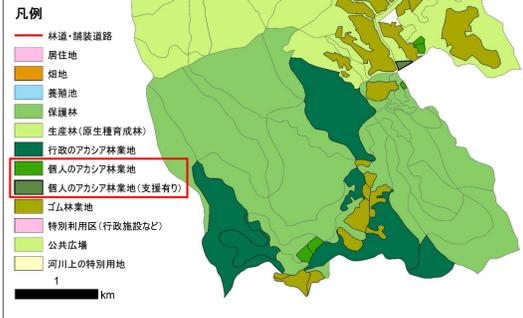


図3 T村の土地利用図(2013)



写真 伐採・運搬の様子(2015)

結果② 各林業地の地理的条件

各林業地の地理的条件を明確化

- DEM データ(25m × 25m)を作成し、傾斜角を算出
- アカシア材の運搬に利用される、1年中自動車が行き可能な林道および舗装道路からユークリッド距離を算出

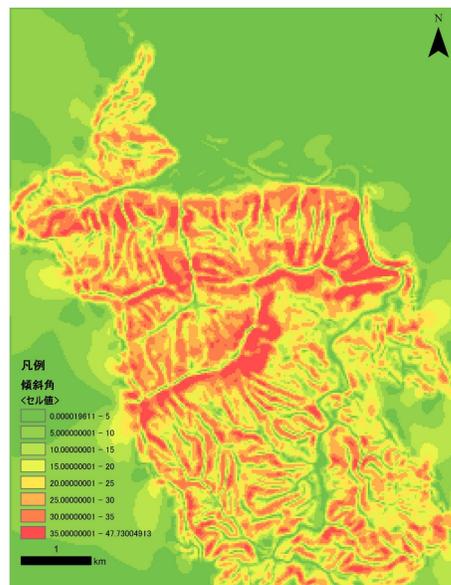


図5 傾斜角

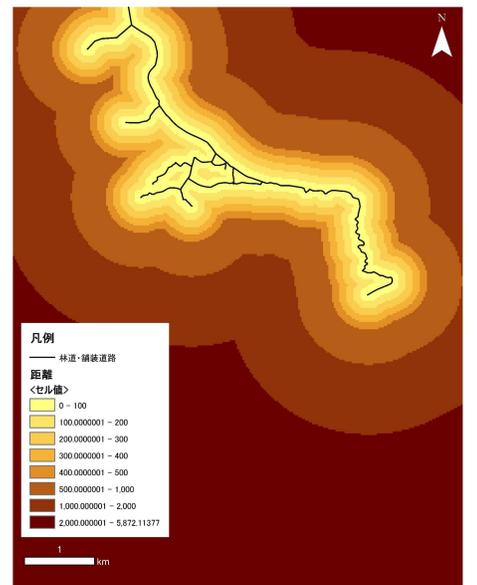
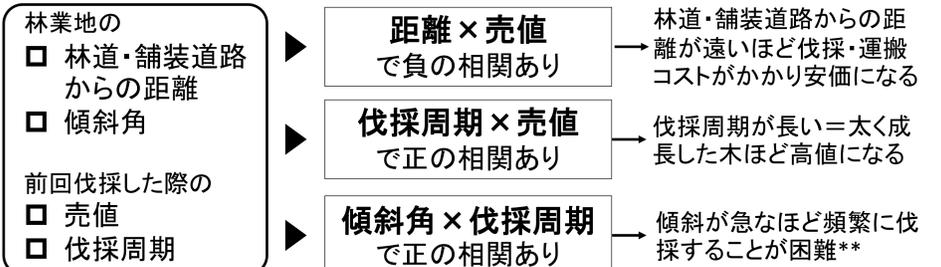


図6 林道および舗装道路からの距離

買い取り状況と林業地の地理的条件の関係



**ただし、分析対象となった土地は条件のばらつきが大きく、不利な条件から長年伐採放棄していた林業地も含まれている。

まとめ・今後の課題

林業地の地理的条件(林道からの距離・急傾斜)による伐採・運搬にかかるコストの違い → 住民の収入にも影響

林業地ごとの地理的条件の適切な評価に基づいた林業支援が必要